

NPO 法人 DGC 基礎研究所 2026 年 5 月期事業報告書

I 事業期間 2025 年 6 月 1 日 ～ 2026 年 5 月 31 日

II 事業の成果

1. 研究者集団につながる窓口の運営 <https://dgcbase.jp/> 【産学官民】

事務局やウェブサイトでは、学際的な共同研究、社会学連携による研究開発やイベントの企画立案などについての問い合わせを随時受け付けています。研究者集団への相談窓口としての役割に留まらず、科学的で俯瞰的な現状認識に基づいたコンサルティングを行っています。

また、邑瀬事務局長兼研究コーディネーターが 2022 年 7 月より「京都府立大学産学公連携コーディネーター」、2023 年 1 月より「滋賀県農山漁村発イノベーションプランナー」を兼務し、連携の可能性をさらに広げています。

[参考] 6 次産業化・農山漁村発イノベーションの推進について（滋賀県）

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/ryutsuu/318263.html>

2. コーディネーターによる産学官民連携推進活動 【産学官民】

「京都府立大学産学公連携コーディネーター」としても共同研究を組成するほか、京都府立大学精華キャンパス主催「第 4 回精華キャンパス研究交流会」（2025 年 12 月 19 日）の企画および広報を担当し、「花卉」をテーマにした産学官民による活発な交流に寄与しました。

また、コーディネーターの草分けとして、一般社団法人京都知恵産業創造の森主催「京都産学公連携リエゾン勉強会」（2024 年 2 月 7 日）へ登壇したことを機に、京都府内の産学官連携コーディネーター同士の情報交換および技術向上を図るための「コーディネーター交流会」を同法人へ起案し、企画段階から参画しています。同交流会は 2024 年度より毎年 1 回、同法人の主催により開催され、産学連携活動を担当する上での失敗や悩みごとの情報共有、それらの対処法についての議論等を通じて、産学連携のための技術向上および人材育成に貢献しています。

[参考] 第 4 回精華キャンパス研究交流会（京都府立大学）

<https://www.kpu.ac.jp/news/seminar1029-26244/>

京都産学公連携リエゾン勉強会（一般社団法人京都知恵産業創造の森）

<https://chiemori.jp/sangaku/project/report/r5/5-5/>

産学連携コーディネーター交流会（一般社団法人京都知恵産業創造の森）

<https://chiemori.jp/sangaku/project/report/r7coordinator/>

3. 街路樹剪定枝葉の有効利用の推進 【産学官民】

公園の緑化樹や街路樹などの剪定枝葉は毎年大量に焼却処分されている未利用資源ですが、剪定枝葉を分別せずに資源化する従来の方法では用途が限られるために需要が伸びないという問題があります。剪定枝葉を枝と葉に分別すれば、枝はそのままマルチング材に利用

できるほか、パルプや木炭などの原料、バイオマス発電のための燃料として利用できます。一方、葉（生葉）は土壌改良材だけでなく、植物栽培用の培地にも利用可能です。

当法人は継続的な技術指導、研究機関との共同研究や主要技術の特許化を推進するとともに、国土交通省や自治体、民間企業への技術の普及を図る活動を行っています。また、国道 43 号クスノキ街路樹の剪定枝を利用した「国道 43 号名刺」は当法人役員のほか公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団・大阪市西淀川区）などでも使われています。

これら一連の技術は 2006 年に国道 43 号の西宮市内の一部区間において試験導入され有効性が実証されたことから、尼崎～神戸間のすべてのクスノキを対象にした本導入のための準備が進められていました。ところが、道路特定財源の使途見直しにより計画が突然中止になりました。その後、国土交通省にて全国規模での適用が検討されましたが、国の政権交代とともに立ち消えとなりました。さらに、大阪府吹田市においても導入が内定していましたが、

市長の交代により延期された状態が続いています。2023 年 4 月の吹田市長選挙では新人候補者が選挙公約の一つに掲げました。また、ある大手住宅関連会社との業務提携による事業化も検討されました。いずれも技術的な価値とは関係のない理由で実現には至っておらず、事業会社は解散されましたが、当法人は技術を紹介するウェブサイトを引き続き管理するなどの広報活動を粘り強く続けています。



国道43号エコ情報ニュース「よんさん」(2007年6月号)

【参考】旧有限会社マッテルのページ(アーカイブ) <https://dgcbase.jp/matteru/>

4. 「高等独文解釈」のウェブサイト公開 <https://dgcbase.jp/deutsche/>

【科学普及】

上級者向け独文読解のためのサイト「高等独文解釈」は大阪大学名誉教授（故人）が独文解釈用に収集した文章とその和訳の遺稿を試行的にウェブ公開するものです。この遺稿は当初は参考書として出版されるためにまとめられましたが、一般の学生にはやや難解であることから出版が見送られていました。しかし、当時とは異なり現在はインターネットを利用して手軽に発信できます。ウェブサイトにて 124 題を無料公開し、ドイツ文学の学生のみならず一般の愛好家の方々にも広く読まれることを期待しています。

5. 近畿土壤医の会

【科学普及】

「近畿土壤医の会」（会長：間藤徹・京都大学名誉教授）は全国各地域の「土壤医の会」と連携して、土づくりに関する知識や技術の維持・向上と指導力の一層の強化を図るため、近畿地域における会員相互の研鑽と交流を深めるとともに、会員の情報ネットワーク等を通じ現場の土づくりに関する課題解決力を高めていくことを目的としています。教育機関、官公庁、民間企業、NPO など幅広い会員で構成され、設立当初の 2019 年 3 月から 2026 年 5

月まで、当法人が事務局を担当しました。

当期中においては、大阪府立環境農林水産総合研究所農業大学校（羽曳野市尺度）で開講された土壌医検定対策講義で同校の学生を対象とした座学と土壌断面観察についての講義を行いました。

〔参考〕土壌医ネットワーク（土壌医検定資格登録者のためのウェブサイト）

<https://soil-doctor.net/>

6. 電子ジャーナル「土壌植物栄養研究」 <https://dgcbase.jp/wjsspn/> 【科学普及】

土壌・植物栄養分野の研究は、結果が得られるまでに年単位の時間を要することがよくあります。しかし、都道府県農業試験場では近年この分野の研究者が少なくなりつつあり、異動も常態化しているため、数年にわたる息の長い研究を行うことが難しくなっています。一方、継続的な研究ができるはずの大学では研究分野が細分化されて学際的で多様な議論の場が減り、地域に根ざした試験も実施しづらくなっているようです。この分野における地道な調査や研究の成果はこれまで農業生産や環境保全に大きく貢献してきましたが、今後もその重要性は揺るがないでしょう。

電子ジャーナル「土壌植物栄養研究」は、土壌・植物栄養分野の中でも生産現場に近い調査・研究情報を迅速かつ十分な精度で提供するために開設されました。農業試験場や大学の研究者が充実した成果を即座に発表するための場として活用され、さらに農業生産の向上や環境保全に生かされることを期待しています。

7. 音楽サロン「^{いと}ま 絃の間 Son de Sone」 <https://itonoma.info/> 【科学普及】

当法人が入居する建物は昭和初期の古民家であり、住宅地がかつて「西の芦屋、東の曾根」と並び称された当時から残る貴重な歴史的建造物です。平成 30 年の大阪北部地震を機に耐震工事が施され、同時に音楽サロンとして再生されました。同サロンでは本格的な室内楽コンサートが催されており、当法人はその企画や曲目解説などにおいて主に学術的な支援をしています。当期は 4 回のコンサートが開催されました。

8. 会員による科学普及活動～内山代表理事編 【科学普及】

大阪府立環境農林水産総合研究所農業大学校（羽曳野市尺度）における「土壌肥料」および「作物栄養」の講義を内山代表理事が担当し、当期中に 11 回の講義を実施しました。また、講義のウェブ化に対応するための資料や動画を作成しました。さらに、「近畿土壌医の会」事務局も担当しました。

9. 会員による科学普及活動～森川理事編 【科学普及】

石川県政記念しいのき迎賓館（金沢市広坂）の新春企画展「からくり人形と、木彫・和傘・水引の世界～和傘をめぐる OTOKOTACHI part 11 + からくり伝道師」（2026 年 1 月 5 日～ 1



万華鏡のワークショップ

月 12 日) は、金沢の伝統工芸の実演や作品の展示などを行う恒例のイベントです。森川理事が小さな水引や木屑を使った万華鏡を作成するワークショップおよび貝殻コレクションの展示を担当しました。延べ 886 名の入場者がありました。

[参考] 企画展「からくり人形と、木彫・和傘・水引の世界」
(石川県政記念しいのき迎賓館)

<https://www.shiinoki-geihinkan.jp/event/detail/254>

III 事業の実施状況

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 産官学民連携推進事業（一般会計）

【内 容】 産官学民連携事業の企画および支援（窓口相談、コーディネート業務など）

【実施場所】 当法人事務局、京都府立大学（精華町大字北稻八間小字大路 74）など

【実施日時】 随時

【対 象 者】 相談希望者

【収 入】 871,871 円

【支 出】 676,858 円

【内 容】 街路樹剪定枝葉の有効利用の推進（技術を紹介するウェブサイトの管理）

【実施場所】 ウェブ上

【実施日時】 常時

【対 象 者】 ウェブ閲覧者（当該技術に興味のある方）

【収 入】 0 円

【支 出】 6,000 円

(2) 科学普及啓発事業（一般会計）

【内 容】 「高等独文解釈」のウェブサイト公開

【実施場所】 ウェブ上

【実施日時】 常時

【対 象 者】 ドイツ文学の学生および一般愛好家

【収 入】 0 円

【支 出】 6,000 円

【内 容】 「近畿土壤医の会」の事務局

【実施場所】 当法人事務局（豊中市曽根東町 1-5-13）

【実施日時】 随時

【対 象 者】 「近畿土壤医の会」会員

【収 入】 6,000 円

【支 出】 6,000 円

【内 容】 電子ジャーナル「土壌植物栄養研究」の運営

【実施場所】 当法人事務局（豊中市曽根東町 1-5-13）

【実施日時】 常時

【対 象 者】 土壌・植物栄養分野の研究者

【収 入】 0 円

【支 出】 6,000 円

【内 容】 室内楽コンサートの企画支援および曲目解説など

【実施場所】 音楽サロン「絃の間 Son de Sone」（豊中市曽根東町 1-5-13）ほか

【実施日時】 2025 年 6 月 7 日、10 月 4 日、2026 年 1 月 24 日、4 月 25 日

【対 象 者】 参加希望者

【収 入】 0 円

【支 出】 0 円

【内 容】 会員による科学普及啓発活動～内山代表理事編（農業大学校の講義など）

【実施場所】 大阪府立環境農林水産総合研究所農業大学校（羽曳野市尺度 442）

【実施日時】 2025 年 6 月 10 日～2026 年 1 月 20 日（計 11 回）

【対 象 者】 農業大学校受講者

【収 入】 790,300 円

【支 出】 581,447 円

【内 容】 会員による科学普及啓発活動～森川理事編（しいのき企画展出演）

【実施場所】 石川県政記念しいのき迎賓館（金沢市広坂 2-1-1）

【実施日時】 2026 年 1 月 5 日～12 日

【対 象 者】 一般来場者

【収 入】 0 円

【支 出】 0 円

IV 社員総会の開催状況

1. 定時総会

【開催日時】 2025 年 8 月 23 日、16 時 30 分～17 時 00 分

【開催場所】 当法人事務局およびウェブ会議による開催（使用アプリ Messenger）

【出席者数】 正会員 8 名（議事定足数 5 名）

【議 案】 第 1 号議案 2025 年 5 月期事業報告及び活動決算の承認の件

【議 案】 第 2 号議案 次期役員の選任の件

【審議結果】 第 1 号議案は、満場異議無く承認可決した。

第 2 号議案は、各候補者が満場一致をもって選任された。

V 理事会その他の役員会の開催状況

1. 理事会

【開催日時】 2025 年 7 月 22 日

【開催場所】 Messenger にて実施

【出席者数】 理事 3 名（理事総数 3 名）

【議 案】 第 1 号議案 定時総会の日時とウェブ開催の件

第 2 号議案 次期（2025 年 10 月 1 日）より理事 4 名体制に戻す件

【審議結果】 第 1 号議案 定時総会は同年 8 月 23 日 16 時 30 分より、当法人事務局における対面とウェブのハイブリッドにて開催する。

第 2 号議案 満場異議無く原案を承認可決した。

以上